

チャノコカクモンハマキ (Smaller tea tortrix)

Adoxophyes honmai



幼虫(大きくなると体長約20mm)



つづられた新芽

特徴

幼虫は、新芽の先や葉をつづり合わせて、その中で葉を食べます。敵に襲われると、下に落ちて逃げます。京都では、年4～5回発生します。

被害と対策

新芽の先がつづられると、芽が伸びなくなります。メス成虫は、臭い(フェロモン)をだしてオスを引き寄せます。この習性を利用して、オスを引き寄せて発生を調べたり、臭い(フェロモン)を出すものを茶園に多く置いて、オスとメスが出会えなくして、子孫を減らす防除法があります。幼虫を病気にするウイルスや、毒をつくる菌を利用した防除法もあります。